

元禄地震における江戸の火災被害の研究

東京理科大学 工学部第一部 建築学科

辻本研究室

4107088 古川 加奈子

目次

序章

研究背景	1
研究目的	2
研究方法	3

第1章 元禄地震被害

1. 1 地震概要	8
1. 2 地震被害	9

第2章 元禄地震の江戸における地震被害

2. 1 門の被害	10
2. 2 建物被害	13
2. 3 津波被害	16

第3章 江戸における火災被害

3. 1 出火件数	17
3. 2 出火した屋敷の特定	17
3. 3 建物被害区域と出火区域	19

第4章 元禄地震前後30年間における火災被害

4. 1 出火件数	21
4. 2 出火時刻	22
4. 3 出火区域	23

第5章 元禄地震と関東地震の比較

5. 1 地震発生状況	26
5. 2 地震比較	27
5. 3 関東地震の火災被害	29

第6章 まとめ

謝辞

付録

序章

研究背景

江戸時代 265 年間^{註1)}における江戸の火災と地震の発生件数を図 1 に示す。ここでの江戸時代とは江戸に幕府を開いた 1603(慶長 8)年から徳川慶喜が大政奉還した 1867(慶応 3)年までの 265 年を指す。この間、記録されている火災は 2013 件、被害をもたらした地震は 83 件^{註2)}発生している¹⁾。このうち地震から火災に発展したケースは元禄地震(1703(元禄 16)年 12 月 30 日(旧暦 11 月 22 日))と安政江戸地震(1855(安政 2)年 11 月 11 日(旧暦 10 月 2 日))の 2 件のみである²⁾。

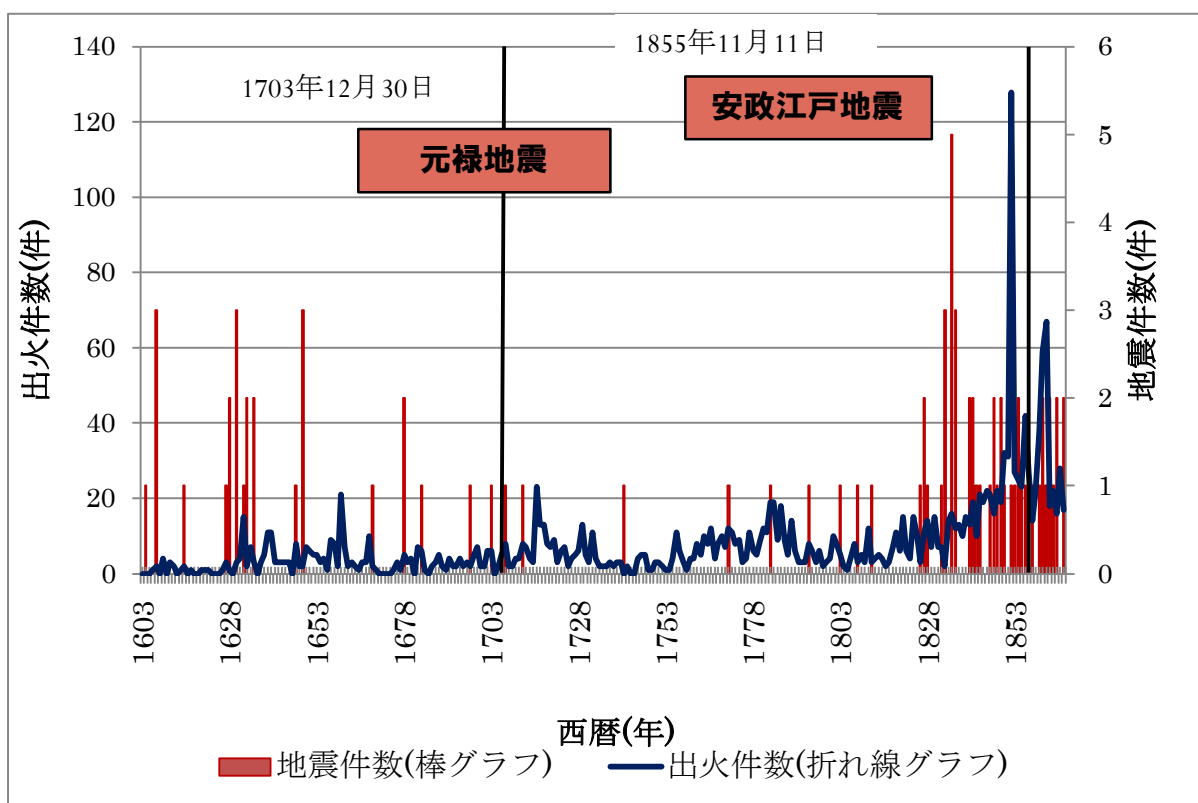


図 1 江戸の火災と地震発生件数(1603-1867)

研究目的

元禄地震は1703(元禄16)年12月30日(旧暦11月22日)に関東地方を襲った地震である。特に江戸・小田原において被害が大きく、津波による被害が大きかった。

元禄地震のあった江戸時代において、江戸の町で火災は「火事とけんかは江戸の華」と言われるほど代表的なものである。江戸の町では265年の間に89件もの大火が発生している。現在、江戸時代の様に火災が大規模な被害をもたらすことは少なくなっている。火災における防災対策も行われているが、地震大国日本として地震における防災対策も同様に重要視されている。

江戸東京の地震災害は元禄地震、安政江戸地震(1855(安政2)年11月11日(旧暦10月2日))、近代では関東地震(1923(大正12)年9月1日)と首都に壊滅的被害を与えている。

元禄地震は大規模な地震であるが、被害をまとめた研究は少ない。そこで本研究は、元禄地震における江戸の被害をまとめることを目的とする。さらに元禄地震で被害のあった場所では通常時も被害があるのではないかという仮定に基づいて、元禄地震前後の通常時の火災被害と元禄地震時の火災被害を比較分析する。そして「一つ前の関東地震(1923(大正12)年9月1日)」と言われるほど関東地震と震源分布も似ていることから、関東地震の火災被害とも比較を行った。

研究方法

本研究では以下の流れで研究を行った。

(A) 文献調査

元禄地震の被害および町の情勢について、江戸を中心に文献調査を行った。

以下、『東京市史稿』および他の文献を以下に示す。

『東京市史稿』とは、1911（明治44）年以来、現在も刊行が続いている江戸・東京の歴史に関する資料を年代順にまとめた編年体の史料集である。

表1 東京市史稿における文献

文献名	出版年	編年
東京市史稿変災第壹篇	1914	1603(慶長8)年以前～1907(明治40)年
東京市史稿市街篇第十五	1932	1702(元禄15)年12月15日～1705(宝永6)年6月18日

表2 その他の文献

文献名	著者	出版社	出版年	内容
武江年表	今井金吾校訂	ちくま学芸文庫	1882	徳川家康が江戸入府以後の江戸における事件・風俗・社会事情などの広範な記事を年表形式にしてまとめている
元禄の町	東京都公文書館	東京都生活文化局	1981	高野家文書の紹介を中心に、江戸伝馬役・名主役の役割を、主として町とのかかわりにおいてまとめている

(B) 地震および火災被害の把握

1. 「東京市史稿変災篇²⁾」および「市街篇³⁾」から被害をまとめ、さらに場所が特定できる被害について地図ソフト(MapInfo Professional10.0)により「江戸城下武家屋敷名鑑」で区分されている地区に落とし込み³⁾、地震および火災被害を把握した。

2. 「江戸町人の研究第五巻」(西山松之助編、吉川弘文館刊行、2006)に記載されている「江戸災害年表」を参考に、元禄地震前後30年間(1673-1733)の火災被害をまとめた。また、対象区域における出火について地図ソフトに落とし込んだ。

(C)元禄地震被害の考察

以上の研究項目から、元禄地震被害の考察を行う。また、地震前後 30 年間(1673-1733)の江戸の火災被害と関東地震から元禄地震の考察を行った。

対象区域

本研究の対象区域は御府内 15 部(曲輪内、小川町、番町、神田、浜町、八丁堀、靈巖島、木挽町、築地、愛宕下、西久保、中野、巢鴨、池袋、板橋、根津、谷中、駒込、竜泉寺村などをおさめる地域)から角田川(隅田川)以东の本所、深川を除いた地区である。御府内とは江戸時代、町奉行の支配に属した市域のことである。1804(文化元)年に御曲輪内より 4 里までと定められた範囲で、東は砂町・亀戸・木戸川・須田村まで、西は角筈村・代々木村・戸塚村・上落合まで、南は上大崎村・南品川宿まで、北は千住・尾久村・滝野川村・板橋川までのことである。元禄時代は御府内の範囲が定められていないため、「御府内沿革図書」をもとに隅田川以东の本所・深川を除く地域を対象とした。

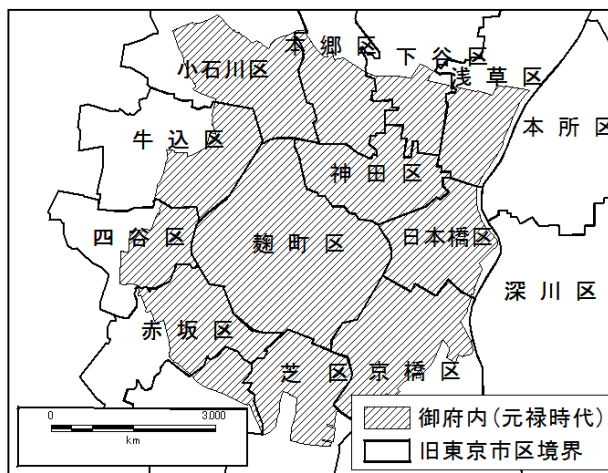


図2 対象区域

また、対象区域を地域の特定を行うため「江戸城下武家屋敷名鑑」で使用されている 168 の区域と江戸城内を合わせた 169 の区域を MapInfo に落としこんだ。

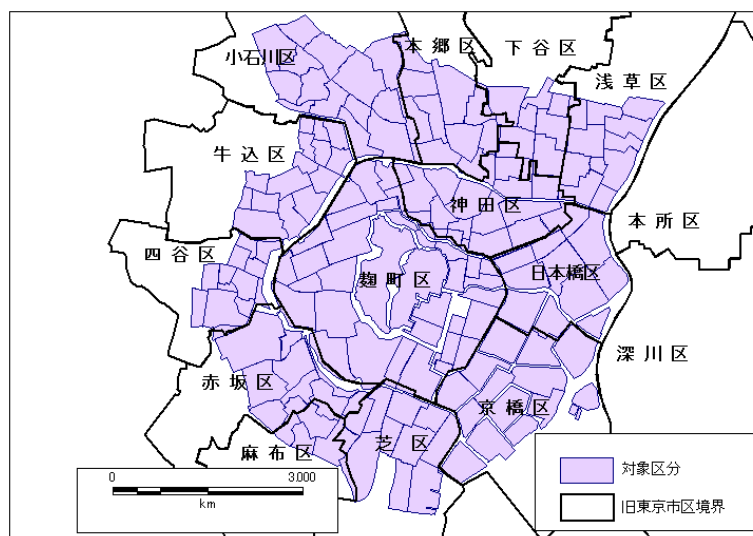


図3 区分した対象区域

以下に(B)で使用した『江戸城下武家屋敷名鑑』の概要、凡例を示す。

監修:朝倉治彦、発行:成瀬恭、江戸城下武家屋敷名鑑 上巻:人名篇 下巻:地域・年代篇、原書房(1988)

本書では『江戸城下変遷絵図集』中の武家の人名・所在地・年代を知ることができる。

以下引用

凡例

1. 本書のデータは、幕府撰『御府内往還/其外沿革図書』(以下『御府内沿革図書』とする)より採り上げた。
2. 人名篇、地域篇、年代篇の3部に分け、付録として、地域名対応表2部、参考文献、江戸・東京古今対照一覧図をつけた。そのうち、人名篇を上巻とし、以下を下巻としてまとめた。
3. 表中の地域名は『御府内沿革図書』の区分けにのっとっており、その地域が現在のどの辺にあたるのかを()内に示してある。
4. 表中の年代は『御府内沿革図書』の各図につけられている年号であり、()内に西暦を示した。
5. 表中に No.とあるのは、巻末に収載した江戸・東京古今対照一覧図(以下古今対照図とする)中の各地域につけた番号のことである。古今対照図は『御府内沿革図書』の区分による江戸府内の各小地区が、現在のどの範囲にあたるかを、国土地理院発行の1万分の1地形図に重ね合わせ、1枚の地図にまとめたものである。(以下省略)
6. 人名篇では、50音順に人名を挙げ、そのよび方をされていた人物が、どの地域に、いつ頃いたかを、年代順に掲載した。
7. 地域篇では、地域名を古今対照図の番号順に挙げ、次いで年代順に、その地域にいた人物を50音順に掲載した。
8. 年代篇では、年代順に、人名を50音順に掲載した。古今対照図の番号も示してあるので、人名篇および地域篇より、地域名を検索することができる。
9. 付録の地域名対応表では、現在のどの町が、江戸時代の区分けのどこに入っているかがわかるようにしてある。区からたどれるものと、町名からたどれるものの2表を用意した。いずれも、区名・町名は50音順となっている。この表に載っていない現在の町名は、本書がカバーする範囲外であるため、載せていない。
10. 付録の参考文献の部では、人名調査に際して基本的なものを、一般のものと、地域別のものとの2分野に大別して、約300点を国立国会図書館の請求記号つきで掲載してある。(以下省略)
11. 本書の表記は、原則的には、現在一般に用いられている漢字・かなづかいを使用した。

参考文献

- 1) 吉原健一郎「江戸災害年表」、西山松之助編、江戸町人の研究第五巻、吉川弘文館、2006
- 2) 東京市役所編、「東京市史稿変災第壹篇」、1914
- 3) 朝倉治彦監修、「江戸城下武家屋敷名鑑 上巻:人名篇 下巻:地域・年代篇」、原書房、1988

第1章 元禄地震被害

本章では文献調査より元禄地震の被害についてまとめる。

1.1 地震概要

以下に東京市史稿¹⁾に記載されている文章を抜粋する。

ニ
及
ブ
諸侯也 江總諸國
ノ
邸第及民家轉倒
ニ
於
テハス、十一月廿二日甲
就中江戸・小田原兩地被害最
江戸城石壁・櫓・多門等壊破
スル
者算無 子夜
ク、
餘震翌年五月
シ
モ
大

1703(元禄 16)年 11 月 22 日 丑刻(午前 1 ～ 3 時)、武蔵・相模・安房・上総諸国にて大地震があった。特に、江戸・小田原の被害が最も大きかった。江戸においては、江戸城石壁・櫓・多くの門等が壊れ、数えることのできないほどの屋敷および民家が倒壊した。また、余震は翌年の 5 月まで続いた。

また、地震規模はマグニチュード 8.2 であったと推定され、津波のため死者は 20 数万人とも言われている²⁾。

1. 2 地震被害

元禄地震における地震被害規模を把握するため、死者数を示す。また、江戸について人口を算出し死亡率を把握した。

(1) 元禄地震における死者数

表1に死者数を示す。

房州は津波の被害が大きく、死者数も全体の半数近くにのぼる。

場所	死者数(人)
相州・小田原	2,300
小田原から品川	15,000
房州	100,000
江戸	37,000

表1 元禄地震の死者数

(2) 江戸の死亡率

(a) 人口の算出方法

西田幸夫博士論文を参考『幸田成友著作集第2巻(幸田成友、中央公論社、1972.1)』による江戸の人口を参考に不明な年代を直線で補完し、算出した。武家人口については江戸の武家人口総計として51、2万人と推計した。また人口の増加については、1635(寛永12)年に武家人口が22,500人一定になると考えた³⁾。これより1703(元禄16)年の江戸の死者数は37,000人と推計される。

(b) 江戸の死亡率

江戸の死亡率は当時の人口909,000人の4%を占めている。その多くは建物による圧死が原因と考えられる。

参考文献

- 1) 東京市役所編、「東京市史稿変災第壹篇」、1914
- 2) 今井金吾校訂、「武江年表」、ちくま学芸文庫、1882
- 3) 西田幸夫、博士論文「江戸東京の火災被害に関する研究」、2004

第2章 元禄地震の江戸における地震被害

本章では、元禄地震被害を江戸に絞って文献調査を行った。

表 2-1 第2章で使用した文献

文献名	出版社	出版年	編年
東京市史稿変 災第壹篇	東京市役所編	1914	1603(慶長8)年以前～1907 (明治40)年
東京市史稿市 街篇第十五	東京市役所編	1932	1702(元禄15)年12月15日 ～1705(宝永6)年6月18日

前章より江戸における死者数は 37,000 人と大きな被害をもたらしていることが分かる。しかし、被害について詳細な記録が残っているものは大名旗本屋敷および江戸城周辺の門のみである。よって本章は主に武家地の被害についてまとめる。

また、火災被害については次章にて記述する。

2.1 門の被害

以下に江戸城周辺の門における被害を示す。

表 2-1 門における被害

場所		詳細	死者(人)	怪我人(人)
城内	大御留守居興力番所	-		
	二之丸銅御門かふき番所	-		
	紅葉山下かふき番所	-		
	内櫻田御門番所	-		
	大手腰掛	-		
	吹上御門	北の方石垣崩れ、塀損、壁所々落。		
	平川口御門	御門と塀残らず倒る。		
	内櫻田御門	大番所つふれ、所々壁落。	あり	あり
	追手御門	所々壁瓦落、御城所々御櫓多門瓦壁落、石垣崩れ、或孕む。別の西の丸大破損に見へたり。		
麹町	橋御春屋	-		

和田倉御門	大番所箱番所つふる。	中間7	12
馬場先御門	大番所箱番所つふる。御門外御堀南方石垣56間崩る。	中間1	1
鍛冶橋御門	所々壁落。		
数奇屋橋	地面が10間20間ばかり割れる。	40程	
数奇屋橋御門	堀45間崩る。		
山下御門	箱番所つふる。		
雉子橋御門	同内御蔵・大番所箱番所つふる。	足輕2、中間1	少々
小石川御門	堀ひつみ、壁落。		
牛込御門	堀くつれ壁をつる。		
市谷御門	堀崩、石垣少くつる。		
半蔵御門	堀崩れ、石垣損し、大番所少し損。		
赤坂御門	石垣崩れ、堀崩れ、壁落。		
四谷御門	-		
田安御門	渡り櫓落、石垣崩れ、総壁損す。		
竹橋御門	升形の箱番つぶれ、御多門ひつむ。御門外張番所ひつむ。		
竹橋口	御番所別儀なし。		
北之丸口	堀石垣くつる。		
清水御門	石垣くつれ、所々破損。		
壹ツ橋御門	-		
神田御門	-		
常盤橋御門	少々損し、大番所つふれ掛り、堀石垣崩る。		
呉服橋御門	御門が少し破損し、土手・石垣・堀が崩れる。		
外櫻田御門	東土堀45間崩れ、其外壁瓦所々損す。		
西丸下御厩(うまや)	-		
虎之御門	壁瓦所々損す。		
幸橋御門	同断。		
日比谷御門	大番所つふれ、土堀残らず倒れる。		足輕4
神田	筋違橋御門	大番所後の堀損し、石垣崩る。	
	一ツ橋御門	-	
	神田橋御門	升形の内箱番所つふる。	

日本橋	浅草橋御門	大番所後の塀損、石垣くつろく。		
-----	-------	-----------------	--	--

*送り仮名はつけず原文のまま記載している。ただし、原文にて返り点およびカタカナ表記がある箇所についてはひらがなで記載している。

表 2-1 に示した門を落とし込んだ図を以下に示す。

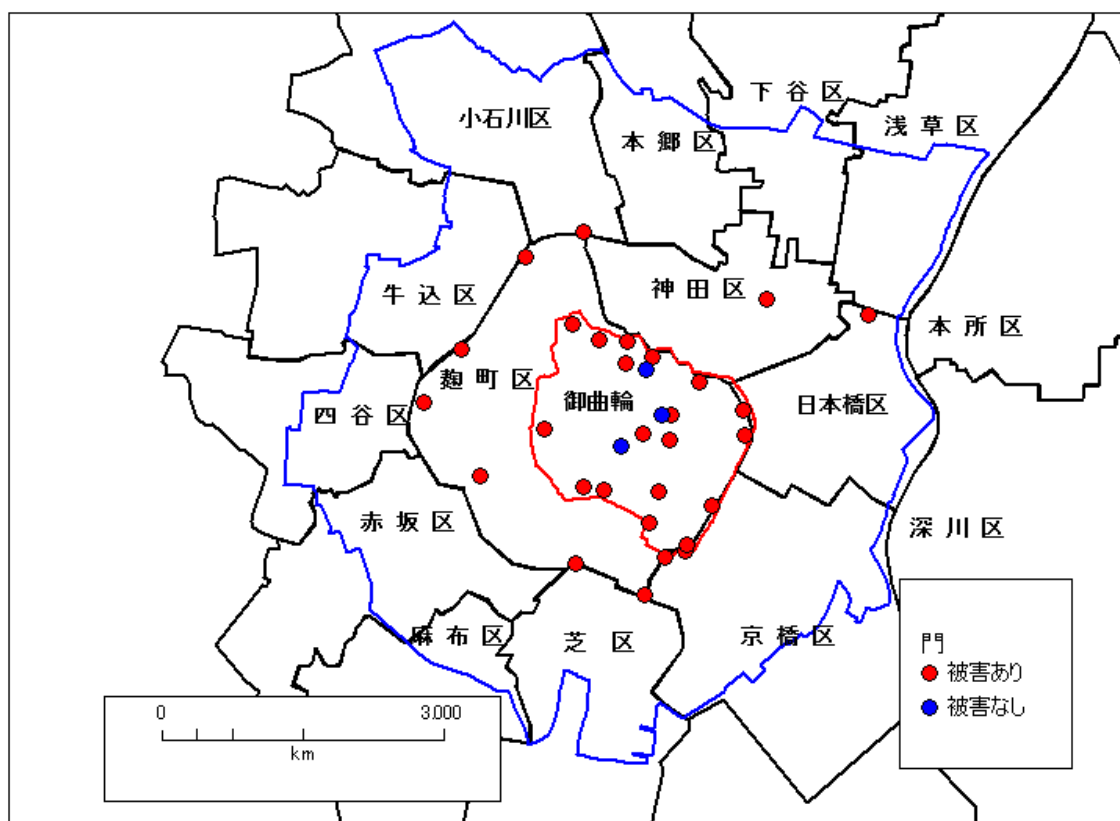


図 2-1 門における被害

被害のなかった門は3棟のみでありほとんどの門が何らかの被害を受けていることが分かる。門は他の建物に比べると被害は出やすいと考えられるが、この被害状況から多くの建物も何らかの被害を受けていると推測できる。

2. 2 建物被害

江戸において建物被害の記録されているものは大名旗本屋敷のみであり、71 件である。表 2-2 に建物被害のあった屋敷を示す。

表 2-2 建物被害屋敷

名前	被害状況
小川左衛門	御役屋敷塀長屋表向つぶれ。
吉田意安	外長屋つぶれ。
小笠原平兵衛	外向塀少小損。
佐野信濃守	門長屋つぶれ。
永井庄右衛門	塀損。
大久保彌右衛門	同。
中根二郎左衛門	居宅つぶれ。
朝倉藤十郎	同。
舟橋宗迪	外長屋つぶれ。本宅半崩。
鶴殿十良左衛門	外長屋つぶれ。
蜂屋主計	塀損本宅半つぶれ。
大澤主膳	門塀つぶれ。
中山主馬	ねり塀くずれ。
三枝日向守	長屋居宅ともに損ず。
三好勘之丞	長屋少、塀ともに損ず。
溝口攝津守	長屋損。
加藤傳八郎	同。
大久保甚兵衛	外塀本宅ともに損。
星合伊左衛門	長屋損。
前場久三郎	長屋居宅とも損。
高木九介	長屋少損。
石原勘左衛門	塀損本宅とも。
日下部三十郎	長屋つぶれ。
酒井作左衛門	同。
大森三次郎	長屋つぶれ。
久貝因幡守	長屋少損ず。
屋代越中守	長屋壁少し落。
室賀源太郎	長屋塀損。
榊原式部大輔	塀損長屋少々潰。

平岡善左衛門	塀長屋損ず。
山中喜兵衛	外向土蔵潰、塀少々損。
長谷川甚兵衛	外向土蔵少々損。
森川紀伊守	外向塀少々損。
河村善七郎	外向石垣少損。
東篠信濃守	塀少損。
笹山甚右衛門	同。
中島式部	門長屋潰。
曲淵市兵衛	外土蔵崩。
渡邊新左衛門	塀損。
丸茂勘左衛門	外石垣少損。
藤川庄右衛門	同。
柳瀬甚八郎	塀崩れ。
木下平三郎	長屋併土蔵少崩。
松平伊豆守	土塀崩。
大澤右衛門督	土蔵塀損。
黒川興平衛	塀少。
伊奈半左衛門	土塀崩。
松平肥後守	長屋大破。
稲葉丹後守	表長屋少、内長屋大破。
秋元但馬守	表向少、内長屋居宅大破。
阿部豊後守	同。
青山伊賀守	長屋塀落。
松平伊賀守	長屋壁落。
齊藤帯刀	長屋壁落、玄関敷臺つぶれ。
溝口信濃守	練塀くづれ。
大久保隠岐守	表長屋塀腰板落、内長屋大破。
亀井隠岐守	表長屋壁腰板落。
松平大膳太夫	表長屋壁、瓦土塀損。
伊東出雲守	同。
秋田信濃守	表長屋、瓦塀腰板等崩。
松平薩摩守	表長屋伴蔵壁瓦所々大破。
本多中務太輔	北の表長屋兩所にて三十間程倒怪我人なし。
鍋島紀伊守	表長屋壁落。
阿部對馬守	同。

井上大和守	表長屋瓦落併壁損。
青山播磨守	内證向の家併表への通口玄関中屋敷潰、其外所々大破。
柳生備前守	内屋敷等残らず併長屋七十間余ゆかみ、塀土蔵つぶれ。
木下右衛門太夫	所々大破。
松平筑後守	同。

*送り仮名はつけず原文のまま記載している。ただし、原文にて返り点およびカタカナ表記がある箇所についてはひらがなで記載している。

表 2-2 に示した大名旗本屋敷を対象区域に落とし込むことができた 58 ヶ所(54 件)を図 3 に示す。

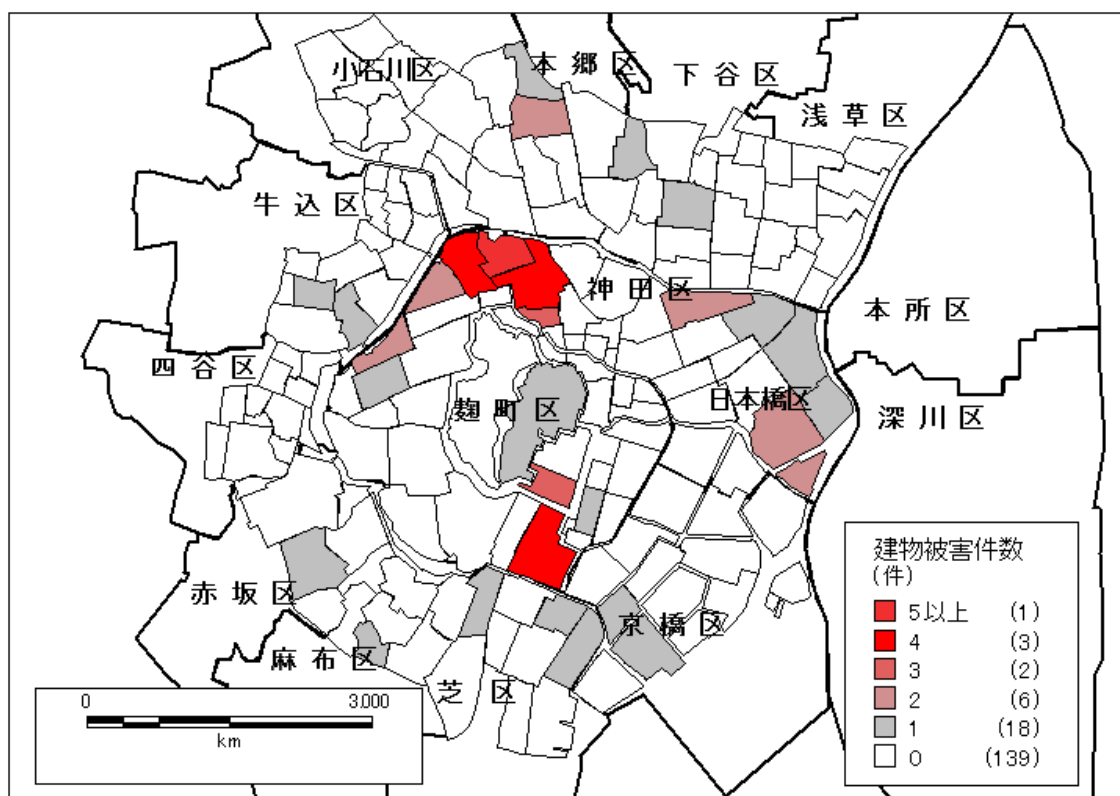


図 建物被害件数

麹町区番町(現在の千代田区番町)から飯田町(現在の千代田区飯田橋)付近および日本橋区に被害が集中していることが分かる。特に飯田町は以前に沼池や川の流路が存在した地区であり、地形が要因と思われる。

2. 3 津波被害

津波ではなく海嘯(満潮が河川を遡る際に、前面が垂直の壁となって、激しく波立ちながら進行する現象。潮津波)という言葉が使われているが、江戸も多少の海嘯を伴ったことが記述されている。

以下、その記録を訳したものである。

麴町の御殿(中納言綱豊公櫻田御殿)から出火。黒い煙が天を覆い、猛火炎を散らし、風も強く、5町10町飛火する。逃げる場所もなく大きな路を塞ぐ中、武家の刀を持ち、乗物の先をはらって逃げ行く者もいた。地震が少しおさまったら火事も鎮まったので、家財道具を持って家に帰ろうとした。

ところが午前4時頃、津波の知らせがあり市町武家一同逃げようとする。この時、海上を見ると、高波が海面3町斗もあるように見えた。

「元禄災異記」より

参考文献

- 1) 東京市役所編、「東京市史稿変災第壹篇」、1914
- 2) 東京市役所編、「東京市史稿 市街篇 第十五」、1932

第3章 江戸における火災被害

本章では江戸の火災被害について示す。

3. 1 出火件数

江戸における出火は9件である。

以下、判断した文面を示す。

出火 ハ 宵 ヨリ 九度有 之候。

文献：月堂見聞集

3. 2 出火した屋敷の特定

出火した屋敷を特定する際、出火記録のある屋敷に加えて、幕府がとった応急措置に関する記録から特定した。

3. 2. 1 出火記録のある屋敷

①甲府中納言豊郷(徳川家宜)

屋敷の東長屋が倒壊し出火。20間焼失。圧死および焼死の人が少し出た。

五町十町飛び火したとも言われている。

②秋田信濃守

屋敷の東長屋が倒壊し出火。20間焼失。圧死および焼死の人が少し出た。(①甲府中納言豊郷(徳川家宜)と同上)

3. 2. 2 幕府の応急措置において出火があったと判断できる屋敷

出火記録としては残っていないが、文面にて出火があったと判断できる屋敷を以下に示す。また、判断に至った文面も示す。

- ・折井淡路守、久貝因幡守、大久保甚兵衛、久松忠次郎

彼遊候借先繕上納候者度冷事地震
十二月七日

○元禄十六年

（紀元前三六三年

○元禄十六年
） 二 村 當未年

（紀元前三六三年
○元禄十六年

） 久松忠次郎因幡守被相返候以上
（紀元前三六三年

） 迄御差延

文献：元禄日記

以上の6件を出火屋敷とした。

以下に対象区域に落とし込むことのできた5件の出火区域を示す。

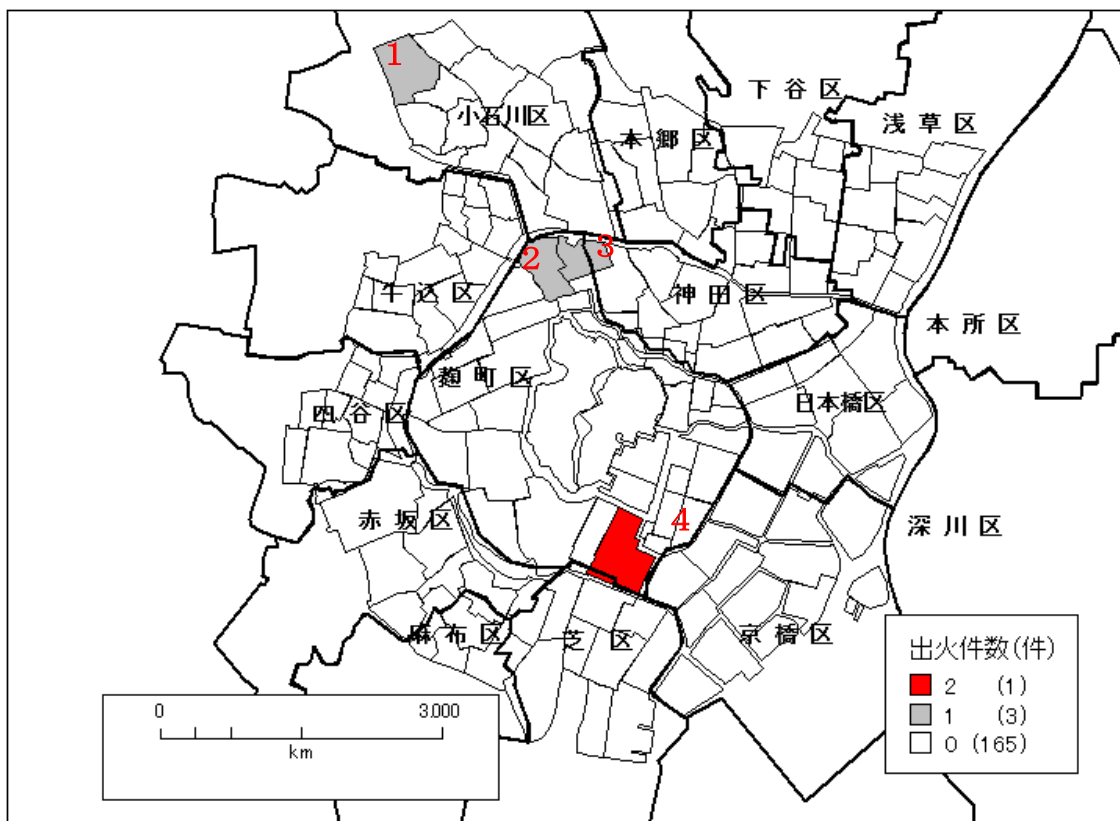


図3 元禄地震の出火区域及び出火件数

以下の表3に図3内の番号の場所にある屋敷を示す。

表3 出火区域と屋敷の対応表

No	屋敷
1	久松忠次郎
2	大久保甚兵衛
3	久貝因幡守
4	甲府中納言豊郷(徳川家宜)
	秋田信濃守

3. 3 建物被害区域と出火区域

図2-2、図3より5件中4件の出火区域が特に建物被害の多い区域と重なっていることが分かる。

参考文献

- 1) 東京市役所編、「東京市史稿変災第壹篇」、1914
- 2) 東京市役所編、「東京市史稿 市街篇 第十五」、1932

第4章 元禄地震前後30年間における火災被害

・元禄地震前 1688(寛文13)年～1703(元禄16)年12月29日(旧暦11月21日)

・元禄地震後 1703(元禄16)年11月23日(旧暦12月31日)～1733(享保18)年

本章では元禄地震前後30年間における火災被害についてまとめ、元禄地震の火災被害を分析する。

4.1 出火件数

以下に元禄地震前後の出火件数を示す。

・元禄地震前 90件

・元禄地震後 195件

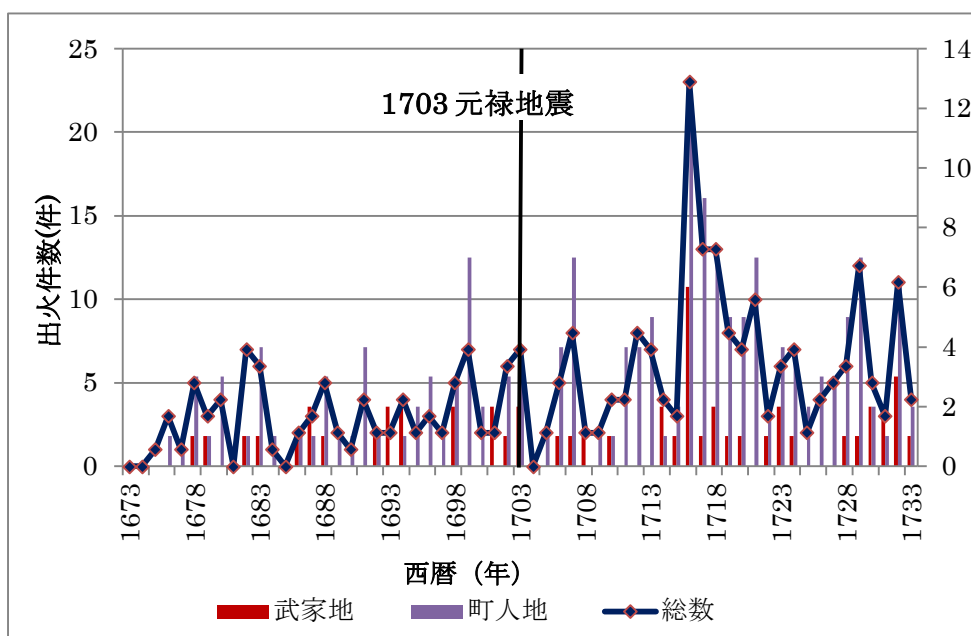


図 4-1 元禄地震前後の出火件数

4. 2 出火時刻

4. 2. 1 基本条件

江戸時代は不定時法をとっており、それを参考に図3，5にまとめた。不定時法は、夜明け(明六つ)から日暮れ(暮六つ)までをそれぞれ6等分し、一刻または一時などと称した。また、時刻を十二支にあてはめた言い方もある。図1は現在使われている時刻との対応表である。

表 4-1 時刻対応表

現在時刻	23~1	1~3	3~5	5~7	7~9	9~11	11~13	13~15	15~17	17~19	19~21	21~23
十二支	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
	暮れ 九つ	八つ	七つ	明け 六つ	五つ	四つ	九つ	八つ	七つ	暮れ 六つ	七つ	八つ

4. 2. 2 元禄地震前後の出火時刻

図 4-2 に元禄地震前後の出火時刻を示す。

火災の母体数が増えているため、全ての時刻で出火が増えている。しかし、元禄地震のあった丑刻以降寅刻までは出火件数の増加が少なく、全体的にも少ない件数となっている。

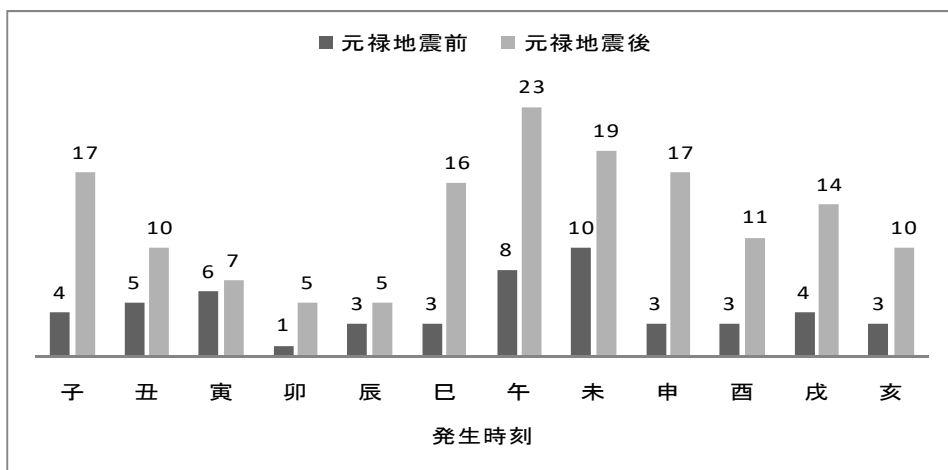


図 4-2 元禄地震前後の出火時刻件数

4. 3 出火区域

(1) 元禄地震前 30 年間(1673-1703)の出火区域

図 4-3 に元禄地震前 30 年間の出火場所を出火区域に落とし込むことのできた 49 件を示す。

特に出火が多い区域は、日本橋区常磐橋御門付近および芝区芝切通・西久保、本郷区湯島である。

(2) 元禄地震後 30 年間(1703-1733)の出火区域

図 4-4 に元禄地震後 30 年間の出火場所を出火区域に落とし込むことのできた 105 件を示す。

出火は京橋区鍛冶橋御門外および神田区神田橋御門外、芝区芝切通・西久保に多い。

(3) 元禄地震前後の比較

火災被害は前後で 2.1 倍増加しており、神田区および日本橋区の火災が増えていることが分かる。

(4) 元禄地震の出火とその前後 30 年間の火災被害を比較

元禄地震前後 30 年間における出火の多い区域とは重ならないことが分かる。

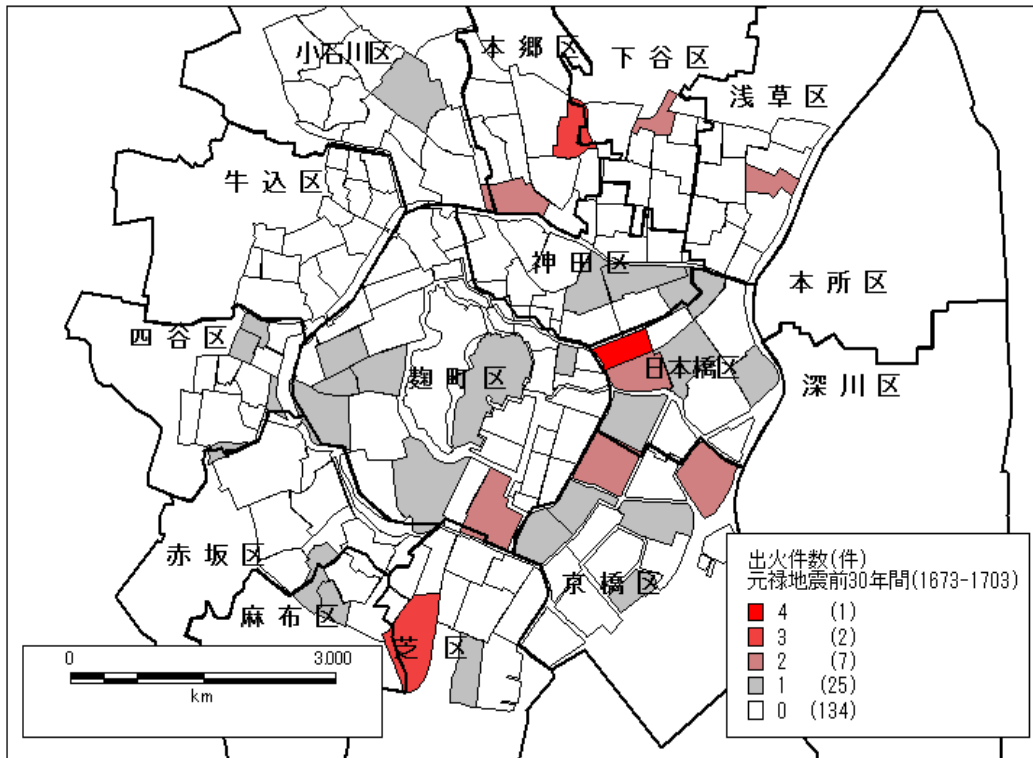


図 4-3 元禄地震前 30 年間(1673-1703)の出火区域 (全 49 件)

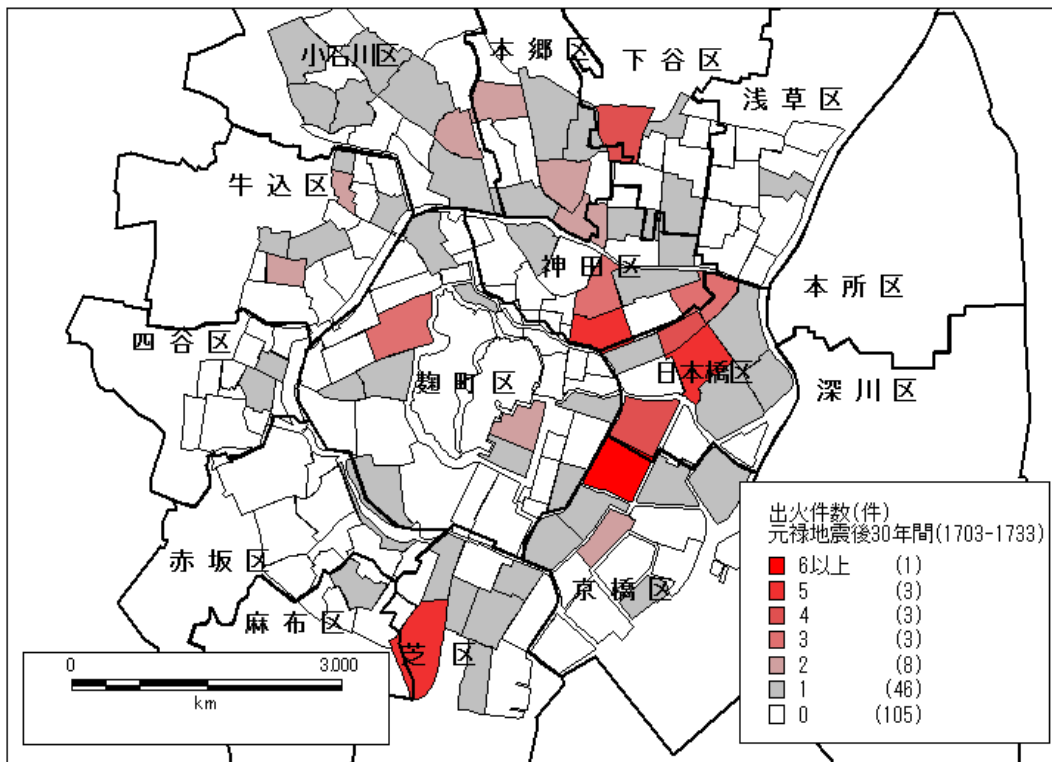


図 4-4 元禄地震後 30 年間(1703-1733)の出火区域 (105 件)

参考文献

- 1) 東京市役所編、「東京市史稿変災第壹篇」、1914
- 2) 東京市役所編、「東京市史稿 市街篇 第十五」、1932

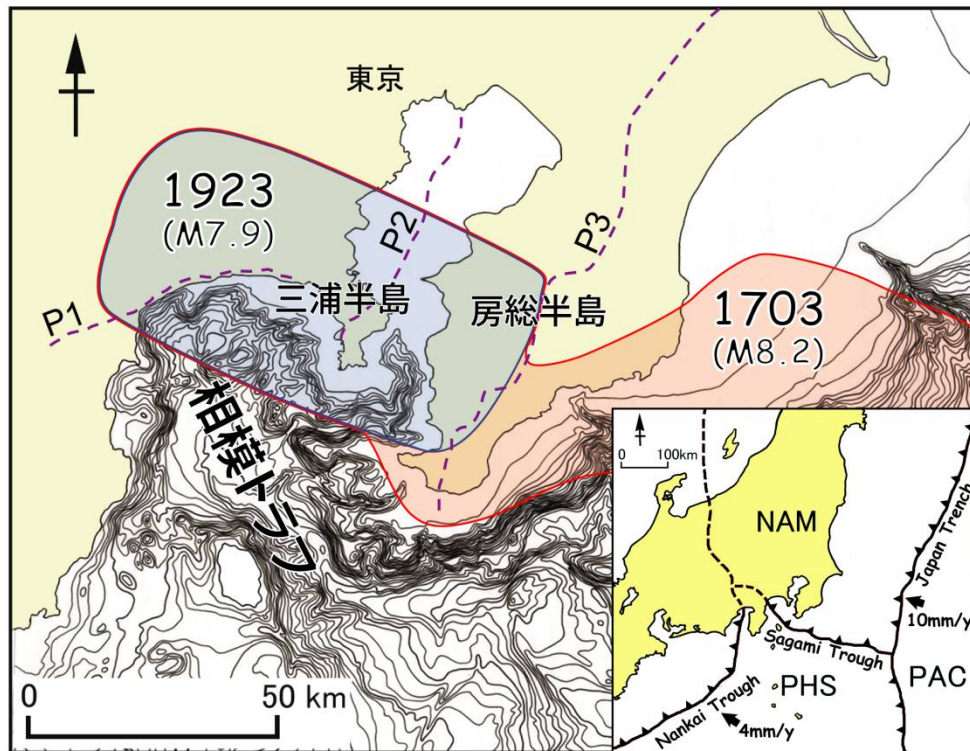
第5章 元禄地震と関東地震の比較

5.1 地震発生状況

関東大震災は相模トラフと呼ばれる海溝沿いのプレート境界で生じた地震である。

相模トラフは相模湾の海底を北西から南東方向に延び、房総半島の沖合で屈曲しながら海溝へと続く舟底状の地形で、水深は1000～3000mある。

関東地震の他に相模トラフで生じた大地震として有名なのは、本研究項目の元禄地震である。これは、関東地震よりも規模が大きい。震源域も関東地震のそれを含み、さらに房総半島南東沖まで広がっていたと考えられる。(下図参照)



海底地形の等深線は100m間隔。NAM：北アメリカプレート、PAC：太平洋プレート、PHS：フィリピン海プレート

図 5-1 相模トラフ周辺のプレート配置と関東地震（1923）の震源域：（青の領域）及び元禄地震（1703）の震源域（青を含む赤の領域）¹⁾

5. 2 地震比較

元禄地震と関東地震の比較を表 5-1 に示す。

元禄地震において、表 5-1 より死者数は関東地震を上回るが、出火件数は 0.2 倍である。この出火件数の差は、地震発生時刻が元禄地震は夜中、関東地震は昼食時であったことがあげられる。

表 5-1 元禄地震と関東地震の比較

	元禄地震	関東地震
西暦	1703 年	1925 年
月日	12 月 30 日	9 月 1 日
時刻	午前 1 ～ 3 時	午前 11 時 58 分
マグニチュード	8.2	7.9
死者数(人)	37,000	2,669
人口(人)	909,000	1,040,000
死者数/人口(%)	4.1	0.3
出火件数(件)	5	28

元禄地震と比較するために、関東地震の被害数を本研究の対象区域内としている。以下、表 5-1 の数値説明である。

(1) 関東地震の死者数および人口

死者数および人口は本来の人数とは異なり、対象区域に合わせて旧東京 15 市ごとに面積案分したものである。以下、表 5-2 に算出経過を示す。

表 5-2 関東地震の御府内における死者数および人口

区名	全面積(k m ²)	人口(人)	関東地震 死者数(人)	対象区域内			
				面積(k m ²)	割合(%)	人口(人)	死者数(人)
麹町	8.159	63,401	104	8.159	100.0	63,401	104
神田	3.074	168,837	843	3.074	100.0	168,837	843
日本橋	2.964	152,828	309	2.793	94.2	143,992	291
京橋	4.545	159,487	296	3.638	80.0	127,651	237
芝	9.390	217,224	270	2.480	26.4	57,372	71
麻布	3.972	96,152	35	0.699	17.6	16,923	6
赤坂	4.226	69,800	76	2.337	55.3	38,599	42
四谷	2.772	84,774	4	1.294	46.7	39,579	2
牛込	5.212	137,380	53	2.163	41.5	57,018	22
小石川	6.495	176,979	216	3.337	51.4	90,931	111
本郷	4.828	149,129	55	2.100	43.5	64,872	24
下谷	5.045	216,883	208	1.412	28.0	60,701	58
浅草	4.807	290,724	2,244	1.837	38.2	111,089	857
本所	6.077	290,128	48,493	0.000	0.0	0	0
深川	7.933	202,456	2,831	0.000	0.0	0	0
(水上)			2,383				0
	79.498	2,476,182	58,420	35.323		1,040,966	2,669

(2) 関東地震の出火件数

対象区域に発生した件数を示したものである。

元禄地震において、表 5-1 より死者数は関東地震を上回るが、出火件数は 0.5 倍である。この出火件数の差は、地震発生時刻が元禄地震は夜中、関東地震は昼食時であったことがあげられる。

5. 3 関東地震の火災被害

関東地震の出火点をプロットし、延焼場所を塗りつぶしたものを図 5-2 に示す¹⁾。

図 3 より、元禄地震の出火区域は関東地震の出火点もしくは延焼区域と重ならないことが分かる。また、元禄地震の出火点が関東地震で出火点の多い区域と異なる。

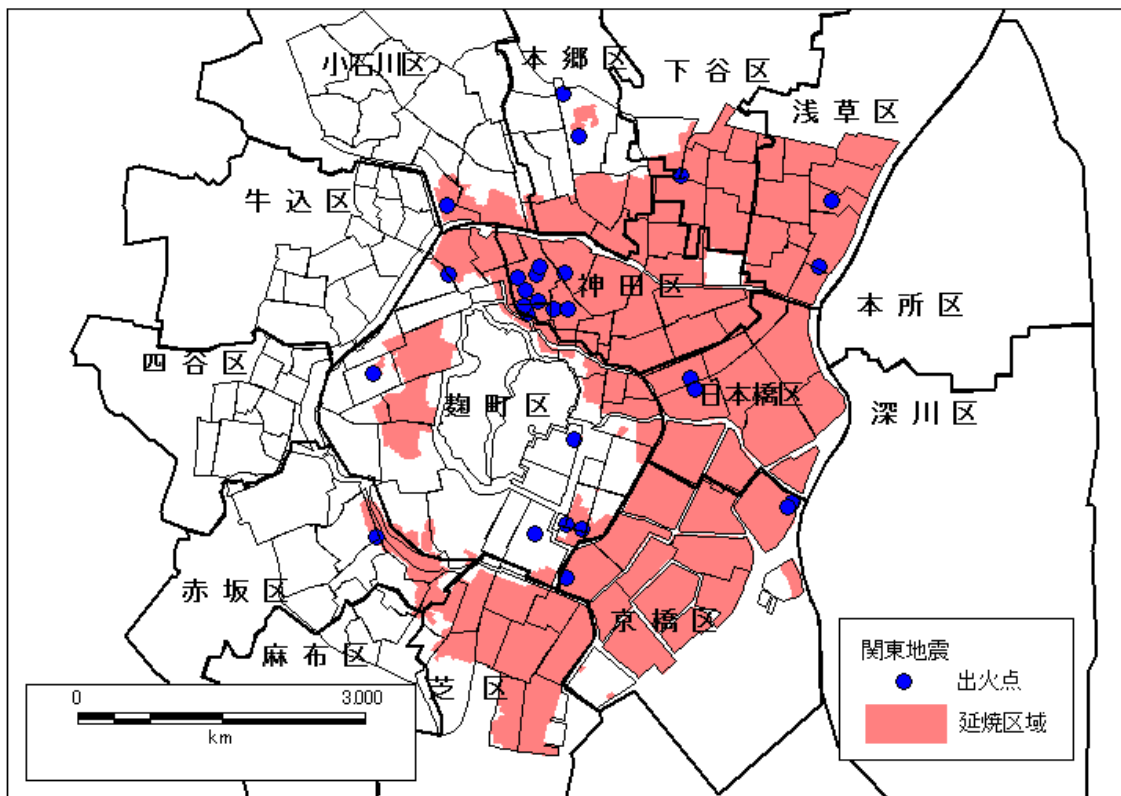


図 5-2 関東地震の出火点および延焼区域

参考文献

- 1) 中央防災会議、「関東大震災報告書第 1 編」、2005
- 2) 今井金吾校訂、「武江年表」、ちくま学芸文庫、1882

第6章 まとめ

元禄地震における文献は少なく、文章での記録がほとんどであった。本論では、元禄地震における江戸の被害において MapInfo を使用したことにより被害状況を分かりやすくすることができた。正確な位置情報は把握できないものが多かったが、対象区域を定め区分し、比較対象とするものを同様の地図に落とし込むことによって分析しやすいように工夫した。

以下、元禄地震被害について示す。

まず元禄地震は、地震規模が大きく江戸も大きな被害を受けているが、火災被害は小さい。震源分布が似ている関東地震に対して、元禄地震の出火件数は 0.2 倍である。また、元禄地震の出火区域において、建物被害もある区域は 5 件中 4 件である。建物被害があった区域と火災被害があった区域はほぼ一致している。しかし元禄地震前後 30 年間における出火の多い区域とは重ならず、関東地震の出火点および延焼範囲とも重ならない。

付録

別表 江戸災害年表(1673-1733)

参考文献

吉原健一郎「江戸災害年表」、西山松之助編、江戸町人の研究第五巻、吉川弘文館、2006

吉原健一郎、大濱徹也編「江戸東京年表」、小学館、2002

武家地、町人地、寺社地の区別

- ・武家地(以下、武)→役職及び「屋敷」、または「邸」と表記されているもの
- ・寺社地(以下、寺)→「寺」または「神社」と表記されているもの
- ・町人地(以下町)→武家地及び寺社地の分類に属さず、住所に「町」と表記されているもの

西暦	元号		月	日	出火時刻	鎮火時刻	焼損面積	延焼軒数	出火地域	出火・失火場所	鎮火場所	焼失、延焼等	防火対策
1673	寛文	13											
	延宝	元											
1674		2											
1675		3	5	13	丑刻	朝						『深川火事』	
1676		4	9	22	丑刻				寺	増上寺台所		[焼失]方丈・総東所	
			12	7	戌刻					[失火]三谷遊廊	[焼け止まる]本所中ノ郷松平紀伊守屋敷	[延焼]浅草寺町・花川戸・山之宿	
				27	寅刻		60町ほど		町	神田須田町二丁目名主市郎兵衛宅		[延焼]日本橋の河岸まで	
1677		5	4	6	巳刻				町	浅草黒船町		[焼失]浅草寺神鳴門	
1678		6	正	8	寅上刻		町1丁ほど		町	京橋二丁目横			
				10	丑刻				町	四谷伊賀町		[延焼]麻布新掘まで	
				11					町	牛込館村宰相書院有田源兵衛宅			
				12	-					-		-	失火の処分について、本人は斬罪、名主・五人組は入牢とすることが定められる。
				14	申後刻	酉後刻						[焼失]青山筋	
			12	4	寅刻				武	[失火]佐賀城主鍋島光茂桜田邸		[類火]本多利長邸	
1679		7	5	29	辰下刻		数町		町	堺町大坂七太夫座			
			9	8	八ツ時ころ								
			10	3	夜五ツ時				武			[焼失]小石川小笠原壱岐守屋敷	
1680		8	4	20	八ツ前			百数十軒	寺	麻布土器町榎木坂一乗寺			
			5	5	午刻			100軒	町	本郷天沢寺前駕町塗師勘兵衛宅			

別表 江戸災害年表(1673-1733)

			閏8	15	寅刻	辰刻	数町		町	数奇屋橋外弥左衛門町	小川町		
			10	21	寅刻		10余町類焼		町	三河町三丁目			大名11人に消防を命ぜられる。
1681	天和	元	11	12	-					-		-	出火の際、長持・車長持の両国の仮橋の通行を禁止する町触が出される。
1682			2	正	巳中刻	未後刻		数百戸		天沢寺前 天神前			
				4		辰後刻			町	駿河町			[延焼]本町・石町。奉書火消出勤
			11	28	巳下刻		3里16町	大名23余家、旗本30余、小身200余、寺院24		牛込最上寺領分百姓地			『お七火事』[延焼]四谷・赤坂・芝海岸
			12	3									火災あり
					卯刻				武	[失火]松平下総守上屋敷			
				28	未下刻		延長13里余	大名75、旗本166、神社47、寺院48	寺	[失火]駒込大円寺			[焼失]東下谷・浅草・本所、[延焼]南本郷・神田・日本橋
1683			3	正	未上刻				武	染井松平加賀守下屋敷			
				12	-					-		-	火の用心のため、風の烈いときは、各町に1、2か所ずつ、昼夜屋根に番人を立てることが命じられる(屋根番の始め)
				18	午下刻		方4町余		町	湯島五丁目			
				19	-					-		-	火事の際に妨げとなる車長持が禁止される。
				22	子刻								[火事あり]谷中
			2	6			数町	大小名邸30余	町	四谷塩町			[延焼]牛込、[焼失]徳川光友邸も
									町	白山材木町			[類焼]寺院多い。
			12	5			数街		町	[失火]日本橋通塩町			
1684	貞享	元	2	24	未刻				町	芝神明前の薬売大好庵			[類焼]あり
			10	不明	-					-		-	火の用心のため、この月より3月まで、強風時の外出を禁止

別表 江戸災害年表(1673-1733)

													し、外出中、風が吹き出したときはすぐ帰宅することが触れ出される。
1685		2	1	20	-					-			出火に際しては、町奉行がその地に赴くように定められる。
1686		3	3	20			4町ほど	町	京橋両替街幸清五郎宅				
			10	7	酉中刻			武	伝通院付近、[火元]内藤新五郎屋敷				
			11	不明	-				-				うどん・そばなど、火を持ち歩いての商いが禁じられ、店での煮売り・焼き売りについても、火の取り扱いを厳重するように触れ出される。
1687		4	2	15	酉下刻		4町余	町	本町二丁目				
			5	28	暁七ツ時			武				[火災あり]酒井河内守屋敷内	
			12	12				武	森美作守屋敷				
1688		5	2	10	戌刻		町々5町ほど	町	駒込酒屋又右衛門宅				[焼失]吉祥寺門内所化寮をはじめ、町々5町ほど
				28	亥下刻			武	松平丹後守屋敷奥				[焼失]門長屋
			3	25	九ツごろ	申下刻		町	下谷切手町守随彦太郎借屋勘定衆岡田庄太夫				[焼失]土邸・寺々
			5	4	子刻	寅刻	32町	400戸	町	本郷駕籠町御小人市郎兵衛宅			
	元禄	元	12	6	亥刻	子中刻	2町四方		下谷魚之棚				
1689		2	2	1	-				-				防火上問題のある、火を持ち歩く商売が禁じられる。
			7	10				寺	増上寺内				
			8	13	夜丑刻(14日か)			[類焼]3-4軒	町	追分口門外王子街道民家			
1690		3	正	7	-				-				火を移す際に用いる付木の販売が禁止され、麻がらの使用が命じられる。
				24	未後刻	申刻		町	浅草知楽院台所辺大工小屋				[延焼]駒形堂・並木町より本所へ
			3	16	-				-				広小路が設置される。(虎ノ門外左衛門町から汐留まで、日本橋大工町から本材木町、浅

別表 江戸災害年表(1673-1733)

													草蔵前通り)
1691		4	2	11	子刻		3町		町	麴町五丁目河野源右衛門宅		[全焼]町屋3町	
				19	酉刻	子刻			町	河田窪湯屋		[延焼]元天竜寺加賀屋敷土取場まで	
			3	-						-		-	広小路が設置される。(麴町一丁目から六丁目にいたる南側の町屋が召し上げられる)
			12	2					町			[焼ける]本町四丁目より日本橋まで	
				11					町	麴町四丁目		[類焼]屋敷多い。	
1692		5	7	上旬	-					-		-	各町の屋敷間数を絵図面に作成し、町年寄役所への提出が命じられる。
			11	不明		即時			武	大奥			
			12	26					町			[焼失]駿河町	
1693		6	10	不明	-					-		-	警火のため、下馬所での喫煙が禁止される。
				13					武			[焼失]南部信濃守上屋敷	
				晦					武	松平信濃守邸			
1694		7	4	29					寺			[焼亡]品川東海寺	
			5	不明					町	駿河台上田弥右衛門宅			
			12	15					武			[焼失]麻布今井谷海野土佐守邸長屋	
				17	暁				武			[焼失]浅野長照今井屋敷	
1695		8	2	8	昼未刻	夜寅刻		6万軒	町	四谷塩町	芝海手	[焼失]紀伊光貞別邸をはじめ6万軒	
			3	18	-					-		-	定火消役5組を増設し、計15組となる。
			12	26	戌刻		5町ほど		町	数奇屋町西側忠兵衛店善兵衛宅		[焼失]山下門外より木挽町橋まで	
1696		9	正	25	午後刻				町	日本橋鞆町		[焼失]南河岸まで	
			7	晦	九ツ過			数軒	町			[焼出]芝田町数軒	
			8	3	子刻		2町四方		町			[焼失]中橋檜物町2町四方	
1697		10	10	17	未刻				寺	大塚西町善心寺		[焼失]小日向築土・牛込飯田町・麴町・田安・番町・代官町、 [被害]多	
			11	7	夜前			7軒	町	越後屋治兵衛		[焼失]石町三丁目岩付町の裏屋7軒	

別表 江戸災害年表(1673-1733)

1698		11	3	5	夜八ツ時			町	本材木町筋			
			8	23			10 軒	武	麻布南部主計屋敷		[焼亡]長屋 10 軒	
			9	6	寅中刻	326 町	大名 83、旗本 225、寺院 232、町屋 18,703	町	新橋南鍋町		[延焼]千住、[類焼]東叡山本坊・僧院など	
				18	-				-		-	30人の火事場目付が新設される。
				25	-				-		-	所々の広小路には道をつけ、矢来を設けてその中に松を植え、立ち入り禁止とするように命じられる。
				26	-				-		-	数奇屋橋外堀から木逸町堀端間に、約70間の広小路を設置する。
			10	7	夜		[類焼]3 軒	武	四番町小普請方屋敷			
			12	10	未上刻			町	石町二丁目		[延焼]八丁堀、[焼失]日本橋、[類焼]中村座・市村座、[その他]綱吉柳沢邸に御成。即刻帰城。	
1699		12	2	6				町	浅草黒船町		[焼失]浅草見付まで	
				22	-				-		-	定火消の火災報知の手段として、太鼓を打つことが定められる。
			3	19				町	築地小田原町一丁目肴店伊勢屋次郎左衛門宅		[全焼]築地小田原町二丁目・川口町・本船町	
				19				町	霊岸島本湊町二丁目山伏仁王院宅		[全焼]霊岸島本湊町一丁目・横町・勘左衛門町など、[焼失]八丁堀まで	
				21	午下刻	南北 25 町、東西 2 町		町	麻布本村寄合南部主税宅			
			4	4	未下刻	横 15 町、長さ 27 町ほど		町	日本橋品川町釘店		[焼失]筋違門まで	
			8	6				町	銀町三丁目			
			11	6				町	元浜町			
1700		13	2	6	申上刻			町	下谷屏風坂下黒鍛町		[焼失]両国橋広小路まで	
			11	16				町	一番町			

別表 江戸災害年表(1673-1733)

1701		14	正	29	午下刻		10間		武	北本所四ツ目橋辺松 平下野守下屋敷		[焼失]10間川辺まで	
			2	4				50軒余	武			[焼失]青山宿松平左京太夫屋 敷内の長屋 50軒余	
1702		15	2	11	辰下刻					四谷新宿太宗寺後百 姓家			
				11	七ツ半過				町	権田原		[延焼]青山・麻布を経て品川宿 に至る、[焼失]麻布・品川両御 殿	
				13					町	麻布六本木坪内源五 郎表門前の町屋		[焼失]付近	
				15	-					-		-	町火消と大名火消の競り合 い、および火事羽織の華美が 禁じられる。
			3	2			5町		町	南八丁堀湊町二丁目 久志本店		5町ほど焼き佃島へ飛火、[焼 失]大船2艘	
			4	6	丑刻				武	神田橋内柳沢吉保邸		[焼失]御成御殿	
			12	26	子刻				寺	浅草東本願寺		[延焼]本所猿江	
1703		16	11	18	午中刻	戌後刻			町	四谷北伊賀町の町屋		[延焼]赤坂・麻布をへて芝札ノ 辻へ	
			11	22	夜半過					大地震の影響		[被害]多、[出火]9件	『元禄地震』武蔵・相模・安房・ 上総の諸国にて大地震。江戸・ 小田原の被害最大。江戸 にては江戸城の石壁・櫓・多 門塔の破壊。諸侯の邸および 民家の転倒等あり。
				28	戌刻					柳原			
				28					町	深川大島町			
				29	戌上刻	翌日			武	小石川水戸邸		『水戸様火事』①[焼失]本郷・ 下谷・浅草②[延焼]本所・深 川、[被害]多	
			12	18	辰刻				町	芝金杉南三丁目	安楽寺		
				不明					武			[焼失]高知藩新田島屋敷	
1704	宝永	元	7	13	-					-		-	防火のため、夜間提灯を灯し て徘徊する念仏講や女巡礼 が禁じられ、以後たびたび禁 止令が出される。
			10	7	-					-		-	八王子千人同心が、江戸防火

別表 江戸災害年表(1673-1733)

			○		-					-			-	の任務を命じられる。 定火消が6組に減らされる。
1705		2	閏4	1	亥上刻				寺				[火災]増上寺方丈、[類焼]装束所御殿など	
			6	3	-					-			-	市中での花火の打ち上げと、その販売が禁止され、以後もしばしば禁令が出される。
			11	5	寅刻	辰中刻	2町ほど		町				[焼失]呉服橋より鍛冶橋の間2町ほど	
1706		3	正	14	巳上刻	翌日辰下刻			町	神田連雀町(須田町ともいう)			[延焼]堺町・大坂町辺まで	
			2	18	晩				武	神田明神下福原刑部屋敷				
				19	酉後刻	亥刻	南北4町、東西2町余		町	鍛冶町二丁目				
			11	16			4町半余		町	四谷竹町			[延焼]塩町	
				20	子刻	辰刻	[類焼]幅3町、長さ15町		町	和泉町			[焼失]大坂町・住吉町・基右衛門町・堺町・葺屋町など	
1707		4	正	15	申中刻	寅下刻			町	浜町新同心町			[延焼]本所一ノ橋弁才天前より中ノ郷業平天神社辺まで	
				16	昼	夕刻	6町四方		町	四谷伊賀町辺			[焼失]塩町・竹町・伝馬町辺まで、[類焼]尾州中屋敷	
				20	夕九ツ	翌日朝六ツ時			町	長谷川町・和泉町新道			[焼失]霊岸島を経て、北新掘・鉄炮洲まで	
				29	卯下刻	巳下刻			町	麻布内藤主殿頭居宅			[焼失]一本松辺	
			3		-					-			-	船の運航に支障をきたし、火災の危険もあるため、白魚漁船が減らされる。
				8	午下刻				町	亀井町	霊岸島		[焼失]小伝馬町二丁目・大伝馬町二丁目・油町・田所町など	
			8	1	午刻		[類焼]幅3町、長さ20町ほど		武	小石川隆(竜)慶橋辺旗本屋敷	白山御殿前		[焼失]馬場より上水上、箆箭町辺	
			12	7	午刻	未刻			町	小日向金剛寺坂町屋			[焼失]伝通院前火消役屋敷など	
				29	寅刻前				町	京橋			[焼失]八丁堀方面へ	
1708		5	3	7	子下刻				武	表六番町横町小普請組正木基五兵衛屋敷堺			[焼失]麴町一丁目堀端まで	

別表 江戸災害年表(1673-1733)

				18	-					-		-	八王子千人同心が困窮のため、江戸防火の任務を解任される。
			12	22	卯上刻		長さ2町、横半町			永田馬場		長さ2町、横半町焼ける	
1709		6	3	9	暁七ツ時				寺	下谷車坂法花宗大久寺		[延焼]上野山内	
			12	29	夜五ツ時		2-3町		町	村松町東側6軒目		[焼失]東南へ2-3町	
1710		7	正	元	子刻		2町ほど		町	小日向諏訪町			
			4	22	夜半		3-4町			麻布			
			10	10	戌刻				寺	池上本門寺		[全焼]本堂祖師堂庫裏書院大坊	
			12	19	申刻	翌日卯刻			武	柳原松平伊豆守中屋敷		[焼失]紺屋町・小伝馬町・小網町・伊勢町・北八丁堀・霊岸島まで	
1711		8	正	4	未下刻		幅10町、長さ1里ほど		町	芝土器町四丁目		[延焼]新堀を越え東芝魚店を経て南海岸にいたる	
				19	申下刻				町	新和泉町		[焼失]小網町・大坂町・堺町・住吉町などを焼き霊岸島に達す。東は浜町・新大橋まで	4日と二度焼けの10町に対して、米1万俵が貸し出される。
	正徳	元	12	11	申刻	夜寅刻			町	連雀町		[焼失]通町・本銀町・本町・石町を焼き、一石橋・日本橋焼け落ち、霊岸島へ達す。	前年と二度焼けの36町に米5万俵が貸し出される。
				28	寅刻	卯後刻			町	元松平越後守上ヶ屋敷、[火元]武井宗休宅			
1712		2	正	不明	-					-		-	日本橋と江戸橋の間に、広小路が設けられる。
				26	未下刻					芝三田		[類焼]多	
			2	8	午下刻	酉刻	[類焼]横230町、長さ3里余			浅草仁王門裏花川戸	猿江町辺	[飛火]材木町・並木町辺より本所中之郷へ、一帯を焼く	
				23	申刻	酉下刻	5-60町		町	新材木町(乗物町・堀江町ともいう)		[焼失]葺屋町・堺町より霊岸島まで5-60町、[全焼]堺町芝居、[死者]芝居町にて多数	
					戌刻					新橋付近		[延焼]品川辺まで	
				25	夜七ツ過	翌朝五ツ時	6町ほど		町	神田四間町		[焼失]雉子町・皆川町まで3町に6町ほど	
			4	24			5町四方		町	木挽町三丁目		5町四方を焼く	
			12	1	子刻				町	下谷岩城伊予守宅		[焼失]筋違橋・和泉橋・元誓願寺前まで	
				5	寅中刻					芝神明前			

別表 江戸災害年表(1673-1733)

1713		3	3	16	申中刻	子中刻			町	[失火]下谷御徒町(長者町ともいう)	金杉町		
			5	2	亥刻	子刻			町	小石川上富坂町	上餌差町		
			6	5	子刻			[類火]1軒	町	新大橋前(浜町)三浦肥後守宅			
			9	23	夜四ツ時過	九ツ			町	室町三丁目東裏浮世小路角薬店桐山三了宅			
			12	13(14か)	夜丑刻					元天竜寺前			
				21	子刻				町	牛込改代町(水道町・音羽町とも)		[焼失]小日向牛天神付近まで	
				22	辰下刻		幅30町、長さ4里ほど	町数250		下谷屏風坂下		[類焼]霊岸島・永代橋まで、[焼失]本所回向院・六間堀辺	24日:二度焼けの町が調査される。
1714		4	正	11	午上刻				町	小日向馬場際、[火元]医師宅		[焼失]左内坂上火消屋敷付近まで	
					亥刻過				武	下谷金杉宗対馬守下屋敷		[焼失]浅草聖天町まで	
			10	20	酉刻	五ツ半時			武	根津社前水戸家下屋敷		[焼失]湯島天神裏門下まで	
			11	25	午下刻	申下刻	幅2町、長さ24-5町ほど			北本所石原弁天前	深川森下町		
1715		5	正	5	巳下刻	未刻	幅3町、長さ20町ほど		町	馬喰町一丁目北側後ろ岩井町		[延焼]新大橋まで	
			3	26	朝七ツ時	六ツ時			町	田所町鍋稻荷の新道		[全焼]長谷川町・乗物町・人形町・和泉町	
			11	23	夜			長屋83軒	武	下谷藤堂和泉守中屋敷			
1716		6	正	元	丑刻	翌日未刻(巳刻とも)			武	呉服橋内大名小路古河城主本多忠良邸		[焼失]周辺の大名屋敷と、京橋付近・山下町・木挽町四丁目まで	
				10	夜					小石川大塚			
				10						内藤宿			
				10								[火災]赤坂	
				11	酉刻過	翌日巳刻			町	湯島無縁坂下茅町	向井将監役屋敷	[焼失]神田・下谷辺より、柳原・本町・伝馬町・堺町・茅場町・八丁堀・霊岸島まで	
				12	午下刻	申上刻			武	湯島榊原政邦邸			
				12	昼九ツ時				町	本郷二丁目			
				13					町			[火災]千住二丁目	
				18	丑刻	卯上刻	幅5町、長さ5-6町		武	築地松平右京大夫屋敷	同所飯田町		

別表 江戸災害年表(1673-1733)

				18	昼九ツ時	七ツ時			町	浅草諏訪町銀座吹場		[焼失]黒舟町までと深川木場 辺まで、[飛火]本所へ	
				20	七ツ時				武	権太原松平権之助組 屋敷			
				21								[火災]品川辺	
				23								[火災]本郷追分	
				29	子刻	寅刻	幅3町、長 さ6町ほど		町	豊島町		[焼失]大川端までと新大橋、土 蔵・穴蔵の焼失も多い	
			2	7	丑下刻	寅中刻	10町ほど		武	本郷六丁目多忠良 下屋敷	本郷五丁目		
				14	昼四ツ時	即刻		町数24-5 町ほど	町	日本橋通二丁目	八丁堀	[焼失]日本橋一丁目・平松町・ 佐内町・新場肴店	
				14		即刻			町	神田鎌倉河岸方面・ 番町辺・鞆町湯屋			
				22	申下刻	酉上刻			武	鍛冶町外五郎兵衛町 傘屋敷	銀座一丁目		
	享保	元	9	23	戌刻				町			[火災]飯田町下	
			10	19	午下刻		4-5町余		町	下谷長者町辺			
			12	16	酉中刻	亥上刻			町	橋町二丁目	浜町	[焼失]富沢町・浜町	
				25	申刻	酉刻			町	駿河台寄合杉岡十兵 衛宅	湯島天神切通し辺		
				29	戌刻				町			[火災]木挽町	
			○	-	-					-		-	路地口に番人を置くことが命 じられる。
			○	-	-					-		-	東西南北の4隊に編成されて いた方角火消が大手組・桜田 組の2組に再編成される。
1717		2	正	-	-					-		-	自身番の番人は、昼夜を問わ ず放火犯の警戒に努めるよ う、命じられる。
				2	戌刻前				町	下谷茅町前田利興邸 裏門前の小家		[類火]同邸長屋・作事小屋等	
				7	亥上刻	丑下刻			町	尾張町(京橋南五丁 目裏中通りとも)		[焼失]30間堀まで、[飛火]木挽 町五丁目へ、[焼失]築地まで	
				13	巳中刻	申上刻(午 下刻とも)			町	桶町	本材木町八丁目	[全焼]南鞆町・本材木町四～ 七丁目まで	
				13	申下刻	酉下刻			町	日本橋南二丁目東側 式部小路	下槇町河岸	[焼く]日本橋より京橋まで東側	
				19	子刻					染井筋			
				20	戌刻	子刻				上野境内護国院			
				22	未下刻	子刻		町屋200町 余	町	小石川馬場井出三郎 右衛門宅		『小石川馬場火事』[焼失]大名 旗本の邸宅をはじめ町屋200 町余、[死者]100余人。江戸城 本丸へも火の子がかかるとい	

別表 江戸災害年表(1673-1733)

				23	巳下刻	申下刻			武	牛込赤城明神下河野 権九郎屋敷		う。 [延焼]改代町・水道町・音羽町 辺まで	
		6		9	辰中刻	未刻	1里ほど		町	小伝馬町三丁目	千住近郷	[焼失]柳原・下谷・浅草辺まで1 里ほど	
		10		5	巳上刻	未上刻			町	南禎町	紺屋町		
		11		15	巳中刻					本所回向院辺		[焼失]深川八幡まで	
		12		12	丑上刻	七ツ時		町数 40 町	町	神田横大工町		[焼失]三河町・鎌倉河岸・松下 町など、本町・両替町・駿河町 は三井両替店西隣まで、品川 町まで町数 40 町	
				28	寅下刻	未下刻	[延焼]幅 1 里、長さ 4 里ほど			牛込元天竜寺前小普 請諸星清左衛門宅		[飛火]市谷より番町へ、[焼失] 麴町から芝増上寺前海手まで	
1718		3	正	12					武	浅草関兵部屋敷		逼塞を命ぜられる。	
		2		14	夜				武	愛宕下新し橋通り田 村下総守中屋敷		[類焼]若干あり	
		4		20	申上刻	戌下刻			町	小伝馬町二丁目(一 丁目とも)北側新道		[延焼]下谷・浅草まで、[その 他]浅草寺境内のみ雨降るとい う	
				26	昼		2町ほど		町	南大工町二丁目裏町 屋			
		5	未明	-	-					-		-	京橋与作屋敷や金六町、水谷 町などの町々が火除け地に収 公される。
				1	未下刻	翌日朝五ツ 頃	幅 20 町、 長さ 100 町 余		町	京橋五郎兵衛町		[焼失]鉄炮洲・新橋辺まで、[そ の他]西本願寺本堂を残し全焼	
		6		18	夜四ツ時 過		[類焼]4 町 四方		町	増上寺門前浜松町三 丁目裏店			
		9		17						小石川薬園役所			
		10		3	未中刻	酉刻	10 町ほど		町	中橋桶町		[焼失]南伝馬町まで 10 町ほど	
				18	-					-		-	各町名主に対して、町奉行か ら町火消設置の通達がある。
		11		25	午下刻	申中刻				中橋		[焼失]日本橋辺まで	
		12		3	未刻		2 町四方		町			[火災]築地飯田町	
				4	-					-		-	町火消の組合が設置される。
				5	未上刻	酉下刻	幅 10 町、 長さ 2 里ほ ど			小石川伝通院辺商家		[延焼]駒込・千駄木・谷中・田 畑村	
				11	申下刻	夜九ツ半時	2 里ほど			上野屏風坂霊善院		[焼失]浅草茅町辺まで	

別表 江戸災害年表(1673-1733)

				25	夜子刻	暁	3町ほど		町	[失火]芝口二丁目通 丁北門		[焼失]伊達・保科邸など、町家 も3町ほど焼ける。	
1719		4	2	7								火事多く、羊角風にて市中騒が し	
				13	申刻過	亥刻			町	芝三田台町聖坂二丁 目	鈴ヶ森	[延焼]南方へ、品川にいたる、 [焼失]高輪泉岳寺	
				14	巳下刻	申上刻			町	下谷池ノ端数奇屋町		[延焼]広小路より柳原・鎌倉河 岸へ、白銀町・石町・呉服町に いたる、[全焼]本町呉服所	
				14	亥刻			数軒	武	愛宕下田村下総守中 屋敷		[類焼]屋敷数軒	
			3	2	-					-		-	防火のため、路地の上に屋根 をつけることが禁じられる。
				10	午下刻	酉下刻			町	下谷七軒町		[延焼]浅草・本所まで	
				16	-					-		-	神田元乗物町や神田佐柄町 などのほとりが収公され、火 除地となる。
			6	16	酉下刻		24-5町		町	神田三河町	須田町	[その他]水道普請中のため水 なし	
			9	8	夜半		5-6町			京橋			
				24	昼九ツ時				町	八丁堀四丁目裏幸町		[焼失]八丁堀四・五丁目	
1720		5	正	11	-					-		-	南町奉行大岡忠相が、飛び火 を防ぎ、防火に努めるように 各町名主に訓示する。
				13	丑刻過				町	堺町		[焼失]住吉町・高砂町辺	
				16	夜五ツ過	四ツ半			町	神田鍛冶町辺		[焼失]紺屋町・鍋町・白壁町	
			2	20	卯下刻	辰後刻			武	青山稲葉丹後守下屋 敷			
			3	27	午下刻	翌日卯刻			町	中橋箔屋町の足袋屋 梅田屋		[延焼]①日本橋・伝馬町通り・ 馬喰町・柳原・和泉橋・下谷寺 町をへて上野下寺通りへ、② 東叡山仁王門・大猷院霊屋を 焼き、坂本・金杉・箕輪・千住辺 におよぶ	將軍吉宗葛西に放鷹中。災後 柳原・神田に火除地を設け、 神田川堤に柳を植える。
			4	20	-					-		-	防火対策として、町屋の土蔵 造り、塗家瓦屋根建築が推奨 される。
				29	-					-		-	神田佐久間町、神田紺屋町周 辺が収公され火除地となり、 神田川沿岸に柳が植えられ る。
			7	19	亥下刻		幅2町、長 さ14町		町	中橋南鞆町二丁目		[延焼]30間堀通りをへて芝口 まで	

別表 江戸災害年表(1673-1733)

			8	7	-					-			-	町火消組合が改正され「いろは」47組となり、纏幟の制度が設けられる。
				14	暁					増上寺前			[類焼]建長・円覚宿坊	
			11	6	巳中刻				町	鉄炮洲築地金六町	同所飯田町			
1721		6	正	8	巳中(下)刻	申中刻	幅5-6町、長さ1里ほど		町	呉服町一丁目	鉄炮洲南本郷町海手		[延焼]幅5-6町、長さ1里ほど	
				28	子下刻	卯中刻	幅4-5町、長さ1里ほど		町	麻布善福寺門前大工平右衛門店三右衛門宅	芝愛宕下			
			2	7	巳上刻	申下刻(戌刻)	幅4-5町、長さ30町		町	四谷中殿町小普請大島肥前守組岩佐源左衛門宅			[延焼]赤坂今井谷をへて麻布一本松辺まで	
				9	未中(下)刻	丑刻			町	四谷忍町一丁目近江屋六兵衛店又右衛門宅			[焼失]赤坂・芝・三田辺	
			3	3	巳下刻	戌刻		町々70余	町	神田三河町四丁目新道荒物屋基之丞店蔦三郎			[延焼]下谷・浅草・千住の町々70余、[焼失]上野山門・黒門	
				4	辰下刻	申下刻			町	牛込木津屋町(納戸町わしや長兵衛宅とも)			[延焼]小石川・本郷を焼き道灌山まで、[焼失]伝通院、寺内にて死者360人余	
				6	-					-			-	髪結床商人に、橋火消が命じられる。
				11	-					-			-	火事場見廻が、初めて設置される。
			春6回の火災				幅1町、延89里余	実数14万軒余					[焼死者]2000人余	
			9	3	-					-			-	火事を拡大させる原因になるという理由で、青山・三田上水が廃止となる。
					5									火事を拡大させる原因になるという理由で、本所上水が廃止となる。
			10	1										火事を拡大させる原因になるという理由で、千川上水が廃止となる。
			12	10	午中刻	申刻			町	神田永富町二丁目			[焼失]日本橋一帯・八丁堀・築地辺	
				10	夜								[焼失]本所より深川まで	
1722		7	正	21	酉刻	子刻			町	小石川餌差町	雉子橋門外		[飛火]台所町へ、[延焼]小川町・飯田町	
			2	5	巳刻	午下刻			武	一番町堀端松平基四	(大雨にて)		[飛火]小川町へ、[延焼]水道橋	

別表 江戸災害年表(1673-1733)

			12	6	酉下刻				町	郎屋敷 神田新白銀町武兵衛 店米春宅	鎌倉河岸	外本郷元町・弓町 [焼失]三河町・田町・永富町	
1723		8	2	16	卯刻過		幅7町、長さ1里半余	類焼屋敷多数	町	赤坂小伝馬町二丁目		[延焼]三田・白金・芝海手	
			3	7	夜八ツ半時		幅3町、長さ8町ほど		町	浅草山之宿町左側、 酒屋井筒屋七郎兵衛 店伊勢屋弥兵衛宅		[焼失]山谷町辺まで幅3町、長さ8町ほど、[類焼]金亀山聖天宮	
			4	22					町			[焼失]子船町二・三丁目	
			10	24	辰刻	午刻			武	愛宕下酒井右京亮忠 武屋敷		[焼失]神明通り	芝田町名主三カ所へ継火の者を捕え賞せられる
			12	5	未刻	酉刻		類焼多数	武	牛込赤城明神下西天 神町神尾左兵衛組屋 敷		[延焼]飯田町から一番町堀端にいたる	
				19	子刻	七ツ時過			町	牛込山伏町		[延焼]市谷弘方町辺へ	火元山伏町は御用地に召上げられる
1724		9	正	晦	午刻				町	山下門外加賀町		[延焼]芝口海手まで、[焼失]木挽町芝居・浜御殿茶屋・芝口御門	以後芝口御門は廃止となる。
			2	7	夜				町	牛込揚場町辺		[焼失]築土近所まで	
				15	未刻				町	浅草新堀端新寺町行 安寺門前町屋		[延焼]本所まで	
				16	九ツ時					浅草砂利場		[全焼]聖天うしろ船宿、[焼失]今戸まで	
			3	8	-					-		-	本所深川火事場見廻が新設される。
			4	16					武	溜池真田伊豆守屋敷		[類焼]隣家	
			閏4	5	未刻				寺	小石川小日向茗谷徳 恩寺		[類火]あり	
				6	丑刻	翌朝			町	四谷箆笥町組屋敷付 近町屋		[焼失]伝馬町二丁目まで	
1725		10	2	14	午下刻	戌刻	幅14-5町、長さ2里半	約900軒	町	青山久保町		[延焼]四谷・市谷・小石川・本郷をへて谷中まで、[その他]放火犯罪人竹松捕えられ火刑	
			3	1	丑刻過				町	下谷池ノ端板倉頼母 宅		[延焼]神明明神下まで	
1726		11	4	11	巳下刻		4町ほど		町	芝金杉新綱町東側			
				11	亥刻				町	牛込加賀屋敷近所		[延焼]小日向辺へ	
			6	23	子刻	酉刻前			町	表二番町浅井源左衛 門宅		[類焼]若干	
			11	16	夜				寺			[火災]白近瑞聖寺	

別表 江戸災害年表(1673-1733)

1727		12	正	晦	未刻過	暮六ツ時				本所石原		[焼失]割下水四ツ目先まで、 [類焼]入江町撞鐘堂類焼	
			閏正	2	夜九ツ時	八ツ時	2町余			浅草門前			
			2	4	暁	翌朝			町	麴町一・二丁目裏			
			12	6	未刻	夜			町	表二番町長田伴助地 借浪人植田用助宅		[焼失]善国寺谷・麴町六～七 丁目通り・清水谷・貝坂辺・赤 坂門内武士屋敷	
				10	申中刻	丑下刻			町	表二番町久保伊右衛 門宅	神明前海手	[延焼]麴町・芝	
1728		13	2	13					町	[失火]湯島佐野某宅			
				14	丑中刻				町	青山久保町		[焼失]鮫ヶ橋辺	
				16	亥下(丑)刻	申下刻			武	神田猿樂町久松大和 守屋敷		[延焼]小川町東通り・護持院ヶ 原明地に至る	
				19	暮六半時			10軒余	町	神田明神表門前東側			
			3	13	九ツ時		四町四方		町	本郷金助町辺春木町		[焼失]七ツ時過まで4町四方	
			11	6	戌刻			12-3軒	町	芝邸西門近所			
1729		14	2	13	申刻			大名・町人 蔵屋敷焼 失多数	町	浅草茅町二丁目伊勢 屋四郎左衛門宅		[焼失]浅草門内・浜町永久橋 通り・築地・本所回向院前・一ツ 目通り・深川まで	
				15	丑刻	翌日巳刻			町	[失火]浅草聖天町二 丁目屋根屋佐平宅		[飛火]山ノ宿をへて本所へ、 [焼失]割下水辺	
				16	巳中刻	未刻過			町	飯田町二合半坂上中 根図書宅		[焼失]田安門外武士屋敷	
				16	酉中刻	亥刻			町	牛込原町二丁目小間 物屋源七宅	牛込原町三丁目際		
				17	未刻		長さ5-6町 ほど		町	本所緑町二丁目亀屋 久兵衛宅			
				17	八ツ時過			10軒ほど				深川にて	
				18	酉上刻				町	浅草土手下田町一丁 目		[焼失]三谷町・新鳥越町三丁 目	
				19				1軒		湯島天神切通し			
			3	13	申刻	戌刻			武	麻布阿部豊後守下屋 敷		[焼失]赤坂門付近まで	
				22	昼七ツ時					八丁堀		[焼失]坂本町・茅場町・同心町	
			4	29	夜		8町ほど		町	茅場町			
			12	9	未中刻				寺	四谷北寺町閻魔堂		[焼失]四谷通町・天王付近	
1730		15	正	6	-					-		-	町火消47組が、1番組から10 番組の大組に分けられる。
				7	八ツ時過				武			[焼失]和歌山城主徳川宗直青 山邸	

別表 江戸災害年表(1673-1733)

			12	未下刻	亥刻	20町ほど		町	下谷七軒町		[延焼]本郷へ、[焼失]丸山まで 20町ほどと松平加賀守邸
		2	13	夜四ツ時		2町ほど		町	小石川餌差町		
			21	戌刻	戌下刻			武	本郷駒込建部丹後屋敷長屋		[類焼]若干あり
		11	23	夜		幅3町、長さ20町			四谷		
1731		16	3	17	未中刻	幅2町、長さ1里ほど		町	芝森元町		[延焼]麻布辺まで
		4	15	15	午後刻	戌刻		武	『目白台火事』目白台建部民部少輔支配夏目五郎屋敷	芝金杉海手	大火となる。[延焼]牛込・麴町・芝、[焼死者]1000人、[焼失]虎ノ門(以後再建なし)
				17	子刻	即刻		武	内桜田松平伊豆屋敷内長屋		[類焼]松平下総守屋敷
1732		17	2	12	午下刻	申中刻		寺	芝愛宕下青松寺		[類焼]久保町辺
				12	午下刻			町	巢鴨小原町竹内小平次宅		[焼失]柳沢吉里下屋敷
				12	午下刻				千駄ヶ谷		[延焼]白金猿町まで
				17	卯中刻	子刻		武	呉服橋内松平市正屋敷		[類焼]若干あり
		3	28	28	昼前	夜五ツ時		町	浅草新寺町檜物師菊屋五郎左衛門宅		[延焼]本所・深川まで
				28	同刻過			町	大塚上町浪人宅		[類焼]多い
				28	未下刻			武	西丸下御用屋敷内		[延焼]数奇屋橋一帯の町屋に
				28	八ツ時	寅刻までに		町	木挽町五丁目表		[焼失]西本願寺表門通り
					夜亥中刻	寅刻までに	1町	町			[全焼]小石川鳶坂辺町屋1町
					子刻	寅刻までに	3町	町			[焼失]本郷巢鴨大原3町
		12	10	10	戌刻	子刻		武	浅野吉長赤坂中屋敷風呂屋		[類焼]周辺若干
1733		18	正	9	申刻			町	霊岸島湊町		[焼失]海際まで
				27					所々		
		3	26	26	暁			武	老中松平左近将監西丸下役邸		
		11	1	1	戌刻			町	鍛冶橋門内井伊兵部少輔居宅		